

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4490100270		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花関2		
所在地	大分県大分市大字佐賀関335番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和元年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和元年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、山と川が周囲を囲み風向きにより海の香りや船の汽笛が届く自然あふれる情緒豊かな所に有ります。春の桜、新緑、飛び交う蛩鑑賞、夏の花火大会見学やセミの声、秋の紅葉、色づき実る果物、冬の風の音、雪景色、毎日さえずる鳥の声など四季を感じて頂ける事も施設の自慢です。又玄関入口ベンチには、地域の方や隣接するデイサービスの方が立ち寄り、一緒に会話を楽しみお茶会をする光景も良く見かけます。ベテランの職員さんをご入居様が1つの家族となり、自分らしく地域の一員となり、安心して生活を送って頂けますようにお手伝い致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・在籍期間の長い職員が多く、継続的な利用者支援や近隣住民との協力体制の基になっている。
- ・外部研修や資格取得意欲のある職員が多く、勤務体制の配慮や職員間での協力支援も行われている。研修や資格取得は、利用者支援や事業所の質の向上に繋がっている。
- ・近隣住民との協力体制が構築されており、日々の交流や災害時の役割分担、認知症の啓発活動に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念3本柱、その人らしく、自然と共に、地域と共にをふまえた、ケアプラン、個別支援、継続した施設生活が送れるように支援している。また、理念は職員が見やすい場所にも掲示し理念を意識した介護支援を行っています	「人間統合」「自然統合」「地域統合」を主軸に、項目ごとに具体的表現で記述された理念が作成されている。理念を念頭においた利用者支援・地域交流に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から地域、近隣の方達と積極的に交流を行っている。特に地区行事参加や廃品回収の時には、入居者が外で回収のお手伝いを行い又地区からは、季節の野菜、海産物の差し入れ、内輪等を頂いている	積極的に取り組んでいる地域行事への参加や協力は、利用者の力の発揮や生活リハビリに繋がっている。近隣住民から気軽に声を掛けられ、差し入れを受ける馴染みの関係が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区老人会などの集会に参加し、介護予防や介護保険、認知症等についてわかりやすく、具体的に説明を行っている。他のグループホームとも話し合いや 随時相談、援助も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活状態や、行事等について情報提供を行い、リスクや課題については、運営推進委員の方達と検討し実践している。又職員が交代で会議に参加することで、支援の質の向上に繋げている	地域の委員が継続して会議に参加し、事業所運営にも協力が得られている。地域行事への参加や介護の重度化についての意見や提案も受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員さんが参加されている。意見交換や介護保険の現状や提出書類の不明な点等についても、電話で気軽に相談を行っている。	地域密着型事業所としての困難事例を相談し、情報提供や助言を受け、解決が図られている。運営推進会議の委員としても、運営や取り組みの理解、情報の共有が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で虐待防止委員会を立ち上げ、事例研修を基に話し合いを行い、何が虐待になるのか、又解決事例を細かく解釈し、弊害についての認識を高めている。毎回感想レポートを作成した書類を全職員に配布し会議で細かくわかりやすく説明を行っている	2カ月に1度計画的に内部研修が行われている。職員は、何が拘束かという意識づけを持ち、拘束の弊害やリスクについての認識を共有し、利用者支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月担当職員が参考書類の事例などを通じて、会議で発表を行い意識づけを行っている。又最新情報を学ぶ事が出来るように研修にも積極的に参加し法人から、情報誌を購入して頂き、全職員にコピーを配布し統一した解釈に努めている		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当職員が権利擁護に関する研修発表を毎月行っている。研修会等で学んだ事は、フィードバックし全職員が学んでいる。又入居前情報やご家族様からの情報により、おひとり、おひとりの個性に配慮した対応を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、一度施設見学をして頂、説明を細かく分かりやすく行っている。契約後の改定については、内容を文章と電話等で十分に説明を行っている。他の事業所からの紹介時にも質問や相談に応じている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見を記入して頂けるように、ご意見箱を設置している。又忘年会等で、今後にグループホームに望みたいアンケートと称し記入して頂き、内容を職員全員で検討している。来訪時にも、管理者が介護記録を見て頂きご意見を頂きやすい工夫を行っている	忘年会を開くなど、利用者・家族・職員が集う場を設けている。皆で軽食を取りながら懇談し、昨年は48名の家族参加が得られている。利用者の状況説明は、家族と共に介護記録を確認しながら説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や人事考課時に意見や提案を取り入れているが、勤務中でもあっても率直な意見交換が出来る風通しの良い環境であり、申し送りノート等で提案内容を職員全員で検討し反映している	勤続年数の長い職員が多く、外部研修や資格取得に意欲的に取り組んでいる。日常の勤務の中で出された意見や提案は職員間で共有され、検討し実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や日常会話から職員さんの意見や目標を把握している。子育て中の職員さんの勤務緩和や給与水準についても、上層部に直接上申しやりがいが持てる職場整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には、自由に積極的に参加できる機会を確保している。長期間の県外研修にも参加できる体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの運営推進会議やイベントに参加する事で交流を行い、相談事にも応じている。又研修会を通じ交流の機会とサービスの質の向上にもつなげている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の違いや不安を、入居者される方やご家族様と共に理解し、ご入居後は、担当職員や施設職員と疑似的な家族となり関わりを持つことで、不安言いやすい雰囲気作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と見学面談の段階から、不安や要望を質問形式で伺って行く事により、安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様との面談段階で、当法人で出来ると出来ないサービスについて、ご説明を分かりやすくご説明し入居以外で最善の方法があると思われた時には、他のサービス利用をご案内し提示している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとうございます」とお礼や感謝の言葉を伝えあい、相身互い、お互い様の言葉で支え合っている。又そのような場面を意図的に多く作る工夫も行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居時、ご家族様には極力ご協力いただくようお願いをしている。短時間の外出、面会、外泊、一部の買い物依頼をお願いし、ご家族との時間を楽しんで頂ける工夫をしている。遠方のご家族様、ご親族には、毎月菜の花便りにて現状報告をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にご協力を頂きながら、馴染み店の継続利用や、家族ぐるみで以前から交流のあった方との繋がりが途切れる事のないよう、支援に努めています。	馴染みの人からの助言が、利用者の心の安定に繋がる支援に活かされている。 家族の協力で、自宅で過ごしたり、馴染みの人や場を訪問するなどの関係の継続支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方と会話しやすい機会を作っているが、全てのご入居者様が孤立する事がないよう、お互いの接点を見つけ、関わり合い支え合う関係が出来る支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族が来訪されている。合わせて心のケアも行っている。又地区行事参加時に顔を合わせる機会も多く、助言を含めて継続した関係が保たれている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にセンター方式にてご入居者さまの思いをご家族様から伺い思いを引き出していますが、困難な場合は、会話や表情で推測し、疑似的にご意向を組み込みながら、再度把握に努めています。	アセスメントはセンター方式を活用している。入居時、家族にも記入を依頼し、日常の支援から得られた新しい情報を、職員が記録として残し、職員間で共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートを作成している。ご家族との会話の中から把握した情報や傾聴して行くなかで把握した場合は、あとがきとして記録ノートに記入し職員も把握しやすいようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活パターンを把握し、出来た事や低下した事を気づきノートを利用し全職員が情報を共有し現状でのADLの確認と把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の個性を大切にしています。職員だけでなく、ご家族からも外出時、外泊時の様子を伺い、気づきノートや職員連絡ノートで意見を集約し介護計画を作成している	情報を整理し、利用者の個性・役割などを大切にした介護計画を立案している。工夫された日々の経過記録により、課題の気づき、解決の経過などが可視化されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、主観を入れずにご本人の言葉やイラストで記載するなど、記録の書き方を工夫している。又チェック表にて日々ケア実践状況を確認し、見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の意向に配慮し基本的に出来るかぎり今すぐの対応を行っています。(急な外出、買い物、受診の付添など)		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からの情報や毎月の廃品回収協力支援、などで施設入居ではあっても、個人の有する能力に応じて出来る事を、楽しみながら行い参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前から利用していたかかり医に継続して受診できるように、情報提供を行っている。ご家族の状況に応じて職員が同行し、関係維持に努めている	利用者の多くは入居前からの掛かりつけ医に継続受診しており、受診は家族同行を基本としている。協力医の訪問診療や訪問歯科を利用する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携、訪問看護で看護師が定期的に来訪している。他部署の看護師とも連携し夜間帯でも適切な指示が受けれる状態にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い適切な介護を受ける事が出来る支援を行っている。又必要に応じて早期に退院が出来るように、アブローチし退院後の通院支援も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針を用いて十分に説明を行っている。又毎月担当職員が内部研修を行い、先々看取りについて家族の思いの変化が有った場合には、対応できる体制を整えて行きたいが、課題も多くほとんどの家族は病院を希望している現状がある	入居時、事業所の指針を説明し、意思確認書を作成している。入居後の状況変化に応じて家族と話し合いを行っている。看取り経験はないが、今後、希望や職員体制が整えば終末期の看取り支援の対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。又急変を想定したシュミレーションを行い、対応が出来るようにしている。又実際に起きた事例を参考にして職員が敏速に対応できるように、学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼、夜間を想定した避難訓練を行っている、又地区内にお助け隊を依頼しており、緊急時には、一斉連絡システムが作動するようになっている。地域の南海トラフ地震、津波を想定した避難訓練にも参加している。	地域の協力者には避難時の利用者の見守りを依頼している。地域の避難所以外に、利用者の状況や安全面を考慮した避難場所を設定し、避難に要する時間やリスクを話し合い、実動訓練をおこなっている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を毎月担当職員が行っています。又羞恥心への配慮から、数か所に設置している交換用品と言葉かけで、自尊心を傷つける事がない支援を行っています。	理念に尊厳や権利について具体的な項目を挙げている。日々の支援の中で、着替え・排泄時の羞恥心への配慮、利用者がその人らしく生活できるようアセスメントや生活歴を活かした個別性のある支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過去のデータから、ご本人のしたい事や行きたい場所を重視し認知症が重度化しても、疑似的な表現方法を用いて自己決定が出来る支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れはありますが、理念にもある、その人らしい生活を重視して支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出するときには、おしゃれをして出かけていますが、日常的には、起床時は髪を整え、入浴後は化粧水をつけ、忘年会時や誕生日会などでは、お化粧やマニキュアをつける支援も行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、きれいな盛り付けとその方に応じて、食べやすい工夫を行っています。行事食や地域の方から頂いた旬な野菜や海草などを食する事も、地域ならではの楽しみです。片付けや食器拭きなども、一部お手伝いして頂いています。職員も無償で皆さんと同じものを食し会話に結びつけています	食事はデイサービス厨房で作られているが、近隣住民の差し入れ食材を厨房で調理し、食卓に上げている。移動販売でパンや食品を購入して食べたり、外出先でソフトクリームやたこ焼きを食べる機会も持たれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の調理員が調理の献立を作成している。食事の摂取量や水分の摂取量は個別に記録している。おやつや時間の深夜の空腹の訴えにも、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の口腔状態に応じて、口腔ケア用品を購入して頂いています。毎食後口腔ケアの促しを行い、記録として残しています。必要に応じて歯科医師に相談をしています。		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、1人ひとりの排泄間隔の把握に努めている。時間をみながらトイレ誘導を行い自然排便が出来るように、取り組んでいる。	日中はトイレでの排泄を基本としている。職員間で、排泄時の言葉掛けや羞恥心への配慮にも注意が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分の摂取量に気を配っている。又トイレ利用時には、立位バランスや排便体操を行っているが、場合によっては、主治医に相談し服薬による調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、出来る限り好きな時間に入浴できるように支援を行っています。(急変を考慮して)又個別に入浴時間の希望を伺い、柔軟に対応しています。リフト浴も設置しています。	日曜日以外は入浴可能な状況で、夏場はシャワー浴を主に、冬期はゆったりと湯船に浸かって入浴を楽しむ支援を行っている。リフト浴操作は、職員が実際に利用者役となって体験し、安心安全な支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても居室で休みたい方には、その方の体調に合わせて休んで頂いています。寝具も季節に合わせて、馴染みの物に調整し室温もその方に合わせて、調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時には、複数の職員で定期薬・屯用の確認を行い、内容に変更がある場合は再確認後職連ノートに記載し全職員が確認している。薬の管理は個人別に1日分を配薬ケースにセットし当日、毎食分1回分を別な配薬ケースにセットし支援している。服薬後の変化も確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や残存機能を生かした支援を行っています。又お礼の言葉かけを行い自信と意欲が保てるように心がけています。急な外出支援も出来るかぎり対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じて、外出やレクリエーションを計画しています。個別支援では、自宅訪問、買い物、外出、ドライブなどの支援を行い、地域行事にも職員と楽しみながら参加しています。	前回の外部評価の目標達成計画として取り組んでいる。職員が馴染みの場を動画で撮影し、利用者に見せ、様々なことを関連づけて思い出す機会になっている。日常的に、玄関のベンチで周囲の風景や外気を楽しむ時間が持たれている。	

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別で少額を、お小遣いとして自己管理されている方もいますが、事業所でお預かりしているお金は、職員が管理し毎月2名で確認を行っている。外出時や自動販売車にて購入する場合は、職員が付き添い重複しないようにアドバイスを行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいますが、気づかない場合には、職員が説明しています。又、長期間訪問がないご家庭には、状況に応じてお伺いの電話や自筆で名前を記入した封筒で、御家族に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが集うホールスペースには、ソファを数か所配置、入居者さんの手造り作品や、懐かしい大正琴、テレビなど配置しています。外ベンチには、季節の花などが鑑賞できるように、配慮しています。温度計、加湿計を設置して適温を保っています	清潔に保たれた共用空間は、食卓を中心に複数のソファが配置され、気の合う利用者同士で和やかに過ごす場となっている。壁面に貼られた多くの写真で、事業所行事やボランティア活動、集団外出支援などを知る事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者さん達で集える場所や、一人の空間を楽しめる場所を考慮し、くつろげるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年利用してきた愛着のある家具を持込んで頂き、孤独感が無い様にご家族の写真等を飾っています。又居室での飲食が可能な方には、冷蔵庫の持込みなど柔軟に対応しています。(主治医許可必要)	居室は、馴染みの家具や備品が配置されている。利用者の生活歴や家族歴を再確認できる家系図や写真が飾られ、面会や訪問者とのコミュニケーションツールの一つとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、残存機能をいかせる手すりや、可動式ベンチを設置しています。又その方のレベルに合わせて、自室の表札、トイレ等の場所がすぐにわかるようにプレートをつけています。移動のさいにも、動線に障害物なく安全に移動して頂けるように、配慮しています。		